

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：37123

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10265

研究課題名（和文）中堅看護師のレジリエンスを引き出す支援モデルの構築

研究課題名（英文）Building a support model to bring out resilience in mid-career nurses.

研究代表者

小手川 良江（Kotegawa, Yoshie）

日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・講師

研究者番号：90341544

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：中堅看護師のレジリエンスを引き出す支援モデルを検討するために、育児経験を有する女性看護師に焦点をあて、中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相を明らかにした。中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相は、ライフイベントによる困難を乗り越える局面と中堅看護師としての役割負担による困難を乗り越える局面があり、中堅看護師が自身の力と周囲からの支援を受けて困難を乗り越え、自己の成長につなげるという一連のプロセスであることが明らかになった。支援モデルとして、困難を乗り越えた経験やその結果についての意味づけを促進することにより本人の力を発揮できるように支援することの必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスについて、困難を乗り越え、その結果までのプロセスとその影響要因も含めたレジリエンスの様相を明らかにしたことで、中堅看護師が困難に直面したとしても、危機を成長の機会にしてキャリア発達していくために必要な力や周囲からの支援を検討する知見を提示できた。そのため、中堅看護師のレジリエンスを引き出す支援モデルを検討するために必要な示唆を得た。レジリエンスに関する多くの研究は、レジリエンスを一時点の力と捉えている。今回、困難を乗り越え、その結果までのプロセスとしてレジリエンスを示した事は学術的に意義がある。

研究成果の概要（英文）：The nurses with childrearing experience reported going through a process in which they often experienced difficulties and overcame them on their own or with help from others to achieve personal growth. This process had two phases. The first phase focused on overcoming life events. The nurses made various adjustments, such as building relationships with people around them and using childcare support, to achieve work-life balance. The second phase focused on overcoming difficulties associated with their responsibilities as mid-career nurses. They received support from their supervisors and colleagues and regarded such difficulties as opportunities for personal growth.

Nurses continued working by recasting their career vision and adjusting their work-life balance while facing difficulties, which they used toward personal growth. Therefore, support must be provided at appropriate times to help nurses reflect on their experiences.

研究分野：基礎看護学

キーワード：レジリエンス 中堅看護師

1. 研究開始当初の背景

2009年の「保健師助産師看護師法」及び「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の改正において、新人看護職員研修が努力義務化・予算化されたことで、新卒看護師に対する研修や新人看護師の定着支援が行われることになり、新卒看護師の離職率(新卒7.8%)は下がっている。しかし常勤看護師の離職率(常勤10.9%)は新卒看護師よりも高い状況が続いている(日本看護協会、2016)。常勤看護師の離職防止には、病院の看護を担っている中堅看護師への支援が重要となる。しかし、中堅看護師への過重負担が問題になっており、中堅看護師が職務を継続し主体的にキャリア開発を行うことが難しい状況になっている。また、看護師のキャリア開発の支援については、個人のキャリア形成へのニーズに組織が十分な支援を行うことが難しい現状も報告されている(山内、2004)。そのため、中堅看護師が職務継続を困難と感じた経験と乗り越えたプロセスについて平成29年から基礎的な研究に取り組みは始めている。その結果、中堅看護師は自分が望むキャリア像と家庭、職場環境などのバランスが崩れ、職務継続を困難と感じている状況があった。

このようなキャリアの節目には危機があり、「危険」と「機会」がともに存在すると言われている(金井、2001)。キャリアの節目に内省することで「機会」を活かし成長することができるため(金井、2001)、キャリアの節目の危機を乗り越え内省につなぐことが重要である。本研究では、危機的な状況を乗り越える力であるレジリエンスに着目した。レジリエンスとは、重大なストレスに直面した場合に適応するプロセスである(American Psychological Association、2011)と定義されており、レジリエンスは「精神的回復力」「肯定的な自己認知」「ソーシャルスキル効力感」「良好な支援認知」の4つの概念で構成されている(谷口、2012)。その中核概念である「精神的回復力」を高めるのは「良好な自己認知」である(谷口、2012)と言われており、「良好な自己認知」を促進することがレジリエンスを引き出すことにつながると考えられた。

2. 研究の目的

本研究は、中堅看護師のレジリエンスを引き出す支援モデルを構築のための示唆を得るために、中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相を明らかにすることを目的とする。レジリエンスという本人の内在する力を支援によって引き出し、中堅看護師の相互支援や良好な自己認知へ変化を促し、状況の捉えなおし、自己のキャリア像や支援体制の再構築促進につなげ、状況打開への行動や感情の変化を促進し中堅看護師の離職を防止する。

3. 研究の方法

本研究は、中堅看護師のレジリエンスを引き出す支援モデル案を検討するために、以下の2段階で行った。

1) 研究1

看護師についてもレジリエンスが職場適応や離職防止として重要な概念として着目されている。しかし、レジリエンスという概念の捉え方は曖昧であり、混乱が生じている。また、日本と海外では医療制度や価値観も違うため、海外におけるレジリエンスの定義を使うことには検討が必要である。中堅看護師のレジリエンスを引き出す支援モデル案を検討するために、日本における看護師のレジリエンスについて概念分析し、看護師のレジリエンスの属性、先行要件、帰結を明らかにすること目的として概念分析を行った。

概念分析の方法は、概念の範囲や境界を明らかにし、理論の中の曖昧な概念を再定義する手法であるWalker&Avantの概念分析アプローチ法を用いて行った。具体的には、1. 看護師のレジリエンスという概念を選択、2. 分析のねらいあるいは目的を決定、3. 選択した概念について発見したすべての用法を明らかにする、4. 選択した概念を定義づける属性を明らかにする、5. 先行要件と帰結を明らかにするという5つの視点で概念分析を行った。

2) 研究2

中堅看護師のレジリエンスを引き出す支援モデル案を具体的に検討するためには、レジリエンスを一時点における力ではなく、プロセスとして捉えることが必要であると考えた。そのため、プロセスとしてのレジリエンスを明らかにすることを目的に研究2を実施した。

研究2は、ライフストーリー法を用いた質的記述的研究デザインとした。研究参加者は、中堅看護師の時期の経験を十分に語る可以考虑される経験年数15年目以上20年目以下の育児経験のある女性看護師とした。分析については、人間の発達や人生経路の多様性・複線性の時間的変容を捉える分析・思考の枠組みモデルである複線経路・等至性モデルを用いた。

4. 研究1における成果

1) 結果

対象文献の収集は、データベースである医学中央雑誌web版、CiNii Articles、CINAHLにて「レジリエンス」とし「看護師」とし原著論文にしばって検索を行い、検索年は限定なしとした。その結果、医学中央雑誌web版では72件、CiNii Articles50件、CINAHL7件であった。タイトルと抄録を読み、内容が看護師のレジリエンスと関係ない文献を除き、看護師のレジリエンスを

対象とした文献 14 件を対象とした。

看護師のレジリエンスの用法は、海外の青年期を対象としたレジリエンス尺度を基に、看護師を対象とした尺度開発が行われていた。また、レジリエンスが精神的健康度を示す指標として使用している状況もあった。その他、看護師のレジリエンスを「資質的要因」「獲得的要因」として捉えた研究もあった。

概念が発生・出現するのに先立って生じる出来事や事象である先行要件として、【看護師という職業に関連した苦悩、苦痛、ストレス】【職場環境による困難】【患者から受ける苦痛】【私生活における困難】が抽出された。定義として備えているべき属性は、【困難に対処する個人の能力】【周囲からの支援の存在】【未来に向けた肯定的な取り組み】が抽出された。概念が発生・出現した帰結として生じる出来事や事象である帰結は、【看護師という職業を継続する】【自身の心身の健康を保つ】【看護への力になる】が抽出された。

2) 考察

看護師のレジリエンスは、看護師という職業に関連した困難が先行要件となり、個人の能力や周囲の支援を活用し、困難を乗り越えることで、看護師という職業の継続や自身の心身の健康を保つなどの帰結につながっていた。

5. 研究 2 における成果

1) 結果

研究参加者は 6 名で、経験年数は 15～19 年目であった。分析の結果、中堅看護師は、【ワークライフバランス調整困難によりキャリアビジョンが崩れ退職の危機になる】という経験をしていた。この時期の必須通過点は{ライフイベント、家族の支援がないことにより自己のキャリアビジョンを諦めた}であり、節目となるような困難であった。しかし、必須通過点である{仕事と育児のバランスを取り自己のキャリアビジョンを描き直した}ことにより、【育児優先でワークライフバランスを調整し自己のキャリアビジョンを描き直し仕事を継続する】という時期に移っていた。その後、子どもの成長に伴い育児支援は減っており、【子どもの成長に伴い仕事や中堅看護師としての役割が増え負担やストレスが増す】という時期になっていた。このような困難に対して自己の力を発揮し、さらに周囲からの支援を得たことにより【何度も立ち向かい困難を看護師としての自己の成長の機会とする】という時期に移行していた。

2) 考察

ライフイベントや中堅看護師としての役割負担による困難は、キャリア発達における節目になっていた。この節目に研究参加者は、家族や職場における人間関係を構築し、育児と仕事が両立できるように自ら調整をしていた。この節目に調整を行ったことにより、ワークライフバランスが調整され、気持ちを切り替え、キャリアビジョンを描き直し働きつづけることにつながっていたと考えられた。また、困難を何度も乗り越えることを自身の成長にもつなげていた。以上より、節目となるような困難を経験した際に中堅看護師が自身の力を発揮し、キャリアビジョンを描き直すことへの支援の必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小手川良江、本田多美枝
2. 発表標題 中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相 育児経験のある女性看護師のライフストーリーの分析から
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小手川良江
2. 発表標題 日本における看護師のレジリエンスの概念分析
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	本田 多美枝 (Honda Tamie) (40352348)	日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・教授 (37123)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------